

GREEN RADAR

Vol.488
2020

1

Contents

新春にあたって ～令和2年 年頭メッセージ～

2019年 各部の3大ニュース 2

A-Policy [重点事業方針]

- ・段ボールコスト抑制の取組み 6
- ・令和元年度
きのこ課中期事業計画の推進状況 7

A-Reports

- ・年末商戦を目指して、信州肉牛の各種共励会を開催 9
- ・アスリートおにぎり「きのこ豚肉と玉ねぎの混ぜご飯」レシピ 10
- ・JA全農長野の事業現況 10
- ・1月の動き 10
- ・1月のラジオ番組表 10
- ・編集後記 10



新春にあたって

（令和2年年頭メッセージ）

新年あけましておめでとうございませう。輝かしい新春をご家族お揃いで迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、全国各地で豪雨災害や台風被害が頻発した年でした。長野県におきましても、5月の降電や10月の大型台風19号などにより農畜産物、農業施設、圃場の被害が発生いたしました。特に台風19号においては、家屋の倒壊や浸水等により生活基盤にも大きな被害をもたらしました。被災された皆様にはあらためて心よりお見舞い申し上げますとともに、本年が農家・組合員の皆様にとって災害のない実り多い1年になりますことを願ってやみません。

長野県本部の運営につきましては、今後も県本部総合経営管理体制の堅持という県本部経営管理の基本をふまえ、会員JAと一体的な事業運営により、生

産販売から購買まで一貫する総合経済事業を通じて、JA組合員の営農と生活の向上に貢献するという基本理念に添い、運営委員会会長として、引き続き健全な事業運営と長野県農業の発展に努力していく所存であります。

さて、JAグループ一丸となってJA自己改革に取り組み、政府の規制改革推進会議では農協改革集中推進期間において一定の評価を得ましたが、JA組織に対して更に改革成果を強く求めてくることが想定されます。政府主導でない自らの取組みとして改革をさらに加速する必要があるとあります。

また、農畜産物貿易交渉においては、一昨年のTPP11、昨年2月の日欧EPA発効に続き米国の二国間による日米貿易協定が1月1日に発効となりました。政府主導による自由貿易交渉が加速し、農業がかつてな

い自由化にさらされ農業者の大きな不安となっています。農業者が将来に希望が持てる政策・対策を、政府・与党には引き続き強く訴えてまいります。

加えて、CSF（豚コレラ）対策では、ワクチン接種が開始され、農家負担の軽減や風評被害対策を強化してまいりましたが、引き続き行政と連携し取り組んでまいります。

本年は「2019（2021）JA長野県3ヶ年計画重点事項」に連動した県本部「中期事業計画（2019年～2021年）」の中間年度となります。

本計画は、農業生産基盤の維持強化、信州産農畜産物の販売体制強化、系統経済事業の競争力強化、地域の生活基盤の維持・発展を基本方針としています。

JA・県本部との事業機能の連携をいっそう強めるとともに、本計画の確実な実践を通じて、JA

組合員へのメリット還元に取り組んでまいる所存であります。

1月は旧暦の「睦月」と称します。「実月」（稲の実をはじめて水に浸す月）が転じたとの説もあります。旧暦が示すとおり、農業は日本人の生活や文化・風習に深く根ざしており、私たちJA組織は、日本を形成してきた農業を守り未来に引き継いでいく使命があると考えております。2020年が組合員はじめ地域の皆様にとって更に飛躍の年となりますようご祈念申し上げます。新春のご挨拶とさせていただきます。

全国農業協同組合連合会長野県本部
運営委員会会長 雨宮 勇



2019年 各部の 3大ニュース

【生産振興部】

1 コンクリート製トレリスの設置

リンゴ栽培における風害・雹害等の気象変動にも強い施設化の推進として、高密度わい化栽培用トレリスの強度化を進めるため、地元業者（株高見澤）と連携し、コンクリート製トレリスを初めて設置しました。今後は、改善・改良を同社と連携しながら進め、普及を目指して取り組んでまいります。

2 果菜類の生産拡大への取組み

取引先と規格を簡素化した条件設定により、キュウリの生産拡大に取り組みました。特に、きのこ生産者に対し夏場需要減退期での複合化品目として支持を受け、次年度への拡大につながりました。また、ミニトマトでは品種や接ぎ木苗の栽培試験を行い、接ぎ木苗のメリットが確認できました。次年度には拡大に向け取り組んでまいります。

3 スマート農業の情報発信

将来を見据え、AI・IoT等を活用したスマート農業の実態を把握し、情報発信を行いました。ハード面では、収穫機やドローン（全自動運航）の実



コンクリート製トレリス



ドローンの実演

【生産販売部】

1 輸送コスト抑制に向けた物流改善への取組み

生産販売部では、中期事業計画の重点目標のひとつとして、効率的な物流体制と輸送コスト抑制に向けた物流改善に取り組んでいます。パレット輸送への体制づくり、卸売会社での荷受体制の改善、モーダルシフトの輸送など、課題解決に必要な取組み事項を13項目に整理し、輸送試験を実施しながら取り組みを進めています。今後は改善内容を会員JAと協議し、輸送会社、荷受先と条件整備を進めながら、物流改善の具現化を進めます。

2 長野県青果物・花き取引会議の開催

生産販売部は5月31日長野市内で、青果・花きの主要取引卸売会社23社の代表を招き、総勢91名の出席のもと「令

②中古農機情報サイトの開設

8月より、農家組合員からの要望の大きい中古農機需要に応えるため、全農長野ホームページ内に一般公開の中古農機情報サイトを開設しました。

J Aや全農長野が扱う中古農機をサイトに掲載し、県内J A（古物商の営業許可未取得J Aを除く）の組合員を対象に利用していただいております。今後、掲載機種の充実に向けJ Aと連携して中古農機の掘り起こしを行い、中古農機の流通拡大に取り組みます。

中古農機サイトURL <https://www.nn.zennoh.or.jp/chukou-nouki/>

機種	型式	中古価格(円)	中古価格(円)	中古価格(円)	中古価格(円)
トラクター	1200型	280,000	280,000	280,000	280,000
トラクター	1200型	280,000	280,000	280,000	280,000
トラクター	1200型	280,000	280,000	280,000	280,000
トラクター	1200型	280,000	280,000	280,000	280,000
トラクター	1200型	280,000	280,000	280,000	280,000

③J A農機&資材フェスタ2019開催
7月19日(金)〜20日(土)の2日間、長野市のエムウェーブで23回目となる「J



農機&資材フェスタでの展示

A農機&資材フェスタ」を開催しました。

スマート農業企画では大型スクリーンを使った情報発信を行い、特設コーナーでは60馬力共同購入トラクターやJ A長野県推奨型シリーズの展示、会場外ではラジコン草刈機やドローンの実演会を実施しました。受付来場者は5,844名(計画比117%・前年比109%)、成約金額は16.5億円

【畜産酪農部】

①県内のCSF(豚コレラ)発生と対応

CSF(豚コレラ)は、豚・イノシシの病気であり2018年9月に日本では26年ぶりに岐阜県で感染が確認されました。その後、近県に拡大、全国で15万頭以上の飼養豚が殺処分される事態となりました。県内でも合計4施設で感染が確認され合計2,943頭が防疫措置により殺処分されています。また、野生イノシシの感染確認も、東海、北陸、中部、関東の12県まで拡大し、国は本年10月ようやく防疫指針を改定、予防的ワクチン接種が始まりました。全農としても関係機関・県内J Aのご協力をいただき、県内養豚農場における防疫対策に取り組みしました。今後は、ワクチン接種した豚肉は食べなくても人体に影響なく、安全であるという正しい情報を周知するとともに風評被害対策にも取り組みます。



和元年度長野県青果物・花き取引会議を開催しました。

主催者であるJ A全農長野運営委員会の雨宮勇会長から「本年度生産販売部の取扱目標1,584億円の達成に向けた、信州ブランドの確立と商品開発、生産基盤づくり、販売力強化に取り組む」との挨拶があり、取引卸売会社に対して本年度生産販売事業の重点方針を説明しました。代表卸売会社3社からは「卸売市場法改正に伴う市場機能変化と将来性、産地に期待すること」の提言をいただき、本年度の安定販売に向けた協議が行われました。

③「えのきたけ」と「ナガノパープル」が機能性表示食品に!!

10月、J A全農長野が事業者として届け出た、えのきたけとナガノパープルが、機能性表示食品として消費者庁に受理されました。全農長野・信州大学・長野県の産学官連携の研究成果により、生鮮きのこ、生鮮ぶどうとしては全国初の機能性表示食品となりました。

機能性関与成分の「GABA(γ-アミノ酪酸)」の研究により、「GABAには血圧が高めの方の血圧を下げる機能があることが報告されています。」



としてパッケージに表示、機能性をPRしています。えのきたけは「長野県J A産えのきたけ」、ナガノパープルは「毎日グレープ(ナガノパープル)」の商品名で、健康意識が高まる現代社会への付加価値販売を目指します。

【生産購買部】

①バーコードによる自動仕入れ入力力の拡大

生産資材伝票のバーコードによる自動仕入れ入力は、従来J Aファームの特定取引先のみ対応していましたが、



昨年より肥料農薬の取引先が対応可能となりました(合計約100社)。本年度は取引コード(桁数)を増やすようにシステム改修をし、取引先拡大に向けて推進をしています。あわせて、3月より肥料農薬の発注データの連動を進め、今後も、系統事務の省力化・効率化を進めてまいります。

②長野県中央家畜市場

家畜セリシステムをリニューアル

長野県中央家畜市場は、平成23年より木曽町で、隔月、年間和牛子牛約2,000頭を上場しています。本年6月市場から、約2,000万円を掛けて家畜セリシステムを更新し、モニターの大型化や複数化、セリ本牛以外にセリ前5頭及びセリ後3頭の情報提供等のリニューアルに取り組みました。これからも、県内外購買者、素牛生産者の皆様に評価いただける子牛市場を目指し運営してまいります。

図4年振りに乳価値上げ

生乳価格が、4年振りに4円/kg値上げとなりました。飲用向けと発酵乳向けが対象ですが、学校給食向け、その他の用途向け価格の値上げには至らず、平均乳代（プール乳価）で3.2円/kgの値上げとなりました。県内酪農家は生産費の高騰や人手不足などコストの上昇に苦しんでいます。牛乳・乳製品の栄養価値をアピールし、消費者に値上げの理解を求めるとともに、生産者と協力し生乳生産の品質向上と基盤の維持拡大に取り組んでいきます。

【生活部】

1「JAでんき」取扱い開始

全農は、平成28年からJAグループ施設への電力供給を開始し、平成30年度には「JAでんき」の呼称で一般家庭向けに電力を供給できる体制を構築しました。これを受け、燃料・ホームエネルギー課では、一般家庭向けの電力供給開始に向けたシステム改修、推進スキームの整備等を進めています。

今年度は、「JAでんき」の全県展開に先立ち、県内2JAを先行JAとして取組みを進めており、年内までに

JA内部職員への推進を開始し、次年度から一般組合員への推進に着手する予定です。「JAでんき」は一般的な家庭で中部電力に比べ電気料金を5%程度削減できるため、次年度以降は取扱いJAを拡大するとともに、石油、LPガス、電気の全てのエネルギー取扱い体制を強化し、総合的なエネルギー提案の実施により、組合員の営農・生活コストを低減し、所得向上に貢献します。

JA内部職員への推進を開始し、次年度から一般組合員への推進に着手する予定です。「JAでんき」は一般的な家庭で中部電力に比べ電気料金を5%程度削減できるため、次年度以降は取扱いJAを拡大するとともに、石油、LPガス、電気の全てのエネルギー取扱い体制を強化し、総合的なエネルギー提案の実施により、組合員の営農・生活コストを低減し、所得向上に貢献します。



2簡単給油！

EneKeyの導入開始

協同経営セルフSSでは顧客固定化を図るため、令和元年7月よりセルフSSで使用できる、スピード決済ツール「EneKey」の導入を開始しました。「EneKey」は、現在お持ちのエネオスカード等クレジットカードがあれば、たった3分でお申し込みができますし、車のキーに付けられるキーホルダータイプで携帯もラクラク

です。また、お財布を出さなくても「EneKey」をリーダーにかざすだけで、カンタン&スピーディーに給油ができます。更に発行手数料はなんと無料で、安心の紛失・盗難補償付きです。現在、協同経営セルフSSでは、約7千名のお客様にご利用いただいています。まだお持ちでない方は、ぜひ各協同経営セルフSSスタッフにお申し付けください！

物流見直しにあたっては、専門調査機関による現状分析、これに基づく拠点ごとの配送効率検証、納品品目ごとの配送体系グループピング等それぞれの検討を踏まえ、関係JAおよびグループ関係会社、各取引先のご協力の下、進めてまいりました。

輸配送情勢は、働き方改革にともなう時間管理の徹底や要員不足等により、今後一層の厳しさを増すことが予測され、系統生活物流もさらなる効率化が求められます。次年度以降もご理解、ご協力いただくなかで改善に向けた取組みを進めてまいります。

ENEOSセルフの新スピード決済ツール

☒ タッチで簡単お支払い！
 ☒ ENEOSセルフで使える！

☒ 入会金・年会費無料！
 ☒ Tポイントもワンタッチ付与！

包装資材課

段ボールコスト抑制の取組み

JA全農長野包装資材課は、本年度、販売部署と連携した積極的な規格・過剰包装の見直し提案によるコスト抑制とパレット輸送による効率的な青果物輸送に適した出荷資材の統一規格設定を進めることを重点方針として事業に取り組みました。

■段ボールの規格見直しおよび適正包装の推進

2年連続の値上げから高止まりする段ボール価格の抑制のため、県全体のきのこ（えのき、ぶなしめじ）の規格見直し検討に取り組みました。えのき主要規格について、詰め方の変更（15袋×2段詰めから10袋×3段詰めへ）と一貫パレット輸送想定による段ボールサイズの縮小（紙の使用面積減少）を行い、輸送試験等を実施した結果、新規導入が決定し、産地の実態に合わせながら主産地を中心に順次切替えが進んでいます。

段ボールの価格構成においては、使

用される原紙代の影響が大きく、その使用面積（才数）により価格が上下します。通常の段ボールでは、天面のフラップはぴったり閉じるように設計されていますが、これを短くすること（ショートフラップ）によって才数を削減し、コストを抑制することができ

■青果物パレット輸送の取組み方向を踏まえた資料提案
物流の担い手であるドライバーの人員不足は深刻で、その労働条件や労働環境の改善が不可欠となっています。青果物輸送においては、現在も手荷役（手積み・手降し）による配送が行われている部分がありドライバーにとって長時間の重労働となっています。この課題を解決する方策として、パレットの活用が上げられます。本年度、パレット輸送による効率的な青果物輸送に向け販売部署と連携した出荷資材の規格検討を開始し、サンプルによる輸送試験等を野菜（レタス類）、果実（なし・ぶどう）で実施しました。産地事情・品目特性等により課題も多く適正な段ボールのサイズ・形状の選定は簡単ではありませんが今後も継続的に検討を進めてまいります。

すでに野菜段ボールでは広く普及していますが、きのこ向け段ボールとしては昨年度、主産地においてぶなしめじ段ボールの1規格について先行的に導入となりました。本年度においては、主要規格を対象に県内各産地で昨年からの課題解決を図る中、継続的な試験を行いました。結果として、ぶなしめじにおいて新たに3JAでショートフラップ段ボールが導入されることが決定し、流通が始まっています。

きのこ以外の果実・野菜・花きにおいても、JAごとに類似規格の集約化や材質・才数の変更提案を行い見直しに取り組んでおり、切替えを進める予

シャインマスカットの輸送試験



シャインマスカット11型パレット対応段ボール



南水のパレット輸送



えのき段ボールサイズ比較



ぶなしめじショートフラップ



えのき段ボール輸送試験

きのこ課

令和元年度 きのこ課中期事業計画の推進状況

1. きのこ生産販売状況について

きのこ生産・販売は依然厳しさを脱していません。経済環境の変化や気象変動は食の変化、小売店の販売に大きく影響しています。また、輸送費、燃料費、生産出荷資材費、人件費を含めた生産販売コストは増高し、きのこ経営はより一層厳しさを増しています。本年度より新たな中期三カ年事業を進めるにあたり各種課題解決と新たな取り組みにより、きのこ販売環境の改善に向け、努めてまいります。

2. きのこ重点推進事項について

(1) 重点取引先への営業強化
各販売事務所できのこ重点取引先を選定し定例商談を実施。目標設定、進捗管理を行いながら供給拡大に向けて取り組んでいます。東京4社、大阪8社、名古屋4社、福岡1社、長野4社を重点取引先とし、消費宣伝事業等の支援策を活用した商談に取り組んでいます。

(2) きのこ機能性表示による

系統ブランド確立

令和元年10月18日、消費者庁へ届出を進めてきた「長野県JA産えのきたけ」が機能性表示食品として受理されました。えのきたけに含まれる機能性成分である「GABA」が「血圧の上昇を抑える効果が得られる」とした研究を重ね、届出・受理に至りました。昨今、高齢化が進む



機能性表示食品として受理されたことを記者会見で報告

中で健康志向と食への関心は一層高まる中、食品の持つ機能性の情報提供が消費者から求められています。えのきたけの機能性表示食品による健康増進と長野県JA産えのきたけブランドを活用した営業推進に取り組む、実販売へつなげます。



パッケージに機能性表示食品と明示

(3) 消費宣伝事業の拡充

本年の消費宣伝事業は、食文化の創出と営業・販売支援ツールとしての拡充を進めてきました。きのこを食べるスープの素（コンソメ味）、きのこ満足パックをはじめとした販促資材の拡充と店舗販売員、サブバイヤー、新人職員向けの研修会開催により、長野県産品ファンづくりに

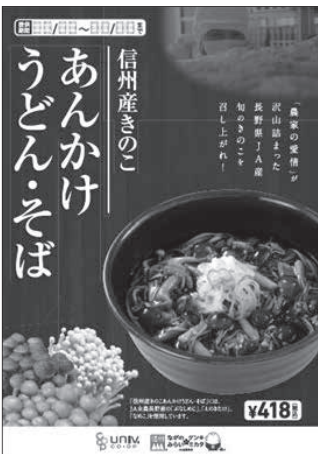


小学校での学習会

ンペーン企画では秋らしさの演出による消費促進を企図して女性タレントを起用したイメージ戦略を展開しました。今後も変化ある宣伝展開を企画し、きのこ消費拡大に努めます。



秋期キャンペーン



大学生協の限定メニュー

(4) きのこ課題解決型プロジェクト

きのこ生産・販売における課題について、集中的に対策・検証を進めてきました。今回はそれらの4項目を報告します。

① 出荷調整力の強化と外部倉庫活用
需要減退期～需要期を通して物日明けの「中だるみ」による価格低下

が顕著に現れます。海の日、秋分の日、体育の日、文化の日明けの週中販売を意図的な出荷休止もしくは土場売り休止を行い価格維持策としました。近年、働き方改革が進む中で、仲卸、バイヤーも週中の仕入れを休む傾向が強いため、買参人の参加が少ないことが予想される販売日の出荷調整について今後も検証を重ねます。また、これらの出荷調整により倉庫収納能力を上回る産地在庫については外部倉庫の活用により調整を行いました。

② 計画生産と春暖期減産の強化

春暖期の計画生産（減産）への取

組みは各産地で強化されています。量販店マーケティングリサーチ会社提供のPOSデータによる需要傾向値を参考に生産計画数を産地ごとに検証し、減産と減産緩和の情報発信を行いました。なお、夏場のきのこ需要減退期については当会生産振興課提案の加工業務用キュウリ定数詰めや夏場のズッキーニ等果菜類の複合生産により青果物総合供給力強化につながっています。

③ コスト抑制型ダンボール開発

本年5月、出荷用ダンボール値上げが発表されました。この値上分の

抑制を目的に「コスト抑制型ダンボール」開発に取り組みました。3度に及ぶ輸送試験の結果を経て、ぶなしめじでは天井空き（15cm空き）タイプ、えのきたけ200g計量品ではサイズ変更版（現行品／外寸500×284×H150↓変更品／外寸356×267×H225）を採用可能として発信しました。現時点では、えのきたけで北信2JA、中信1JAが採用。ぶなしめじは北信3JAが採用。今後の切替えは、生産と集荷所管理実態や資材在庫を鑑みて進む見通しです。現在、えのきたけ100g規格、200g株タイプの実験、開発を継続実施中です。



えのきたけ
コスト抑制型
段ボール



ぶなしめじ天井空き段ボール

④ 新規業務加工開発

昨今の食の変化への対応として、新規加工業務開拓、加工製品開発に取り組んでいます。現在、なめこ冷凍品の提案やきのこのうま煮、きのこ入りハンバーグなどのレトルト食品の開発と原料供給、きのこ汁、きのこスープなどのフリーズドライ品の開発に着手しています。きのこ食文化の創出にむけ加工製品の製造販売の検証を進めていきます。



フリーズドライのきのこスープ（右はお湯で戻したスープ）

年末商戦を目指して、信州肉牛の各種共励会を開催
各地で品質に高い評価

牛肉消費は、11月下旬から年末年始にかけて、一年の中で最大の需要期を迎えます。この時期に信州のおいしい牛肉をたくさん食べていただきた
いと、JA全農長野では県内外で各種の共励会を
開催しています。

今年はCSF（豚コレラ）に翻弄された一年で
したが、最後は品質の良い肉牛で活発な相場形成
となるよう、出品畜も厳選しました。
各共励会での結果は次のとおりです。



信州プレミアム牛肉オール信州共進会で最優秀賞を受賞した三村さんご夫妻

(敬称略)

11月18日	第2回信州プレミアム牛肉オール信州共進会in京都				
	出品頭数：40頭		場所：京都食肉市場（京都市）		
最優秀賞	JA松本ハイランド	三村 勉	606.3kg	A5	BMS12

今年で2回目となった京都市場で開催される信州プレミアム牛肉の共進会。
県が主催となり、取引先の小売店舗では協賛したフェアも開催されました。（写真／表紙左上）

(敬称略)

11月29日	第72回長野県畜産共進会 交雑牛の部				
	出品頭数：32頭		場所：長野県食肉公社（松本市）		
特別優秀賞	JA信州うえだ	久保田 聖	507.9kg	B5	BMS8

入賞牛は、年末のA・コープ店舗などで「アルプス牛」として販売されます。
長野県内では、和牛のおいしさとお求めやすい価格で人気があります。

(敬称略)

11月30日	信州肉牛松本即売会				
	出品頭数：35頭		場所：長野県食肉公社（松本市）		
最優秀賞	JA塩尻市	竹淵 洋平	540.5kg	A5	BMS12

(株)長野県農協協販の12月商戦の目玉商品として販売される和牛の共進会。
非常に優秀な和牛が多く出品され、最高は1頭200万円以上で取り引きされました。

(敬称略)

12月2日	第40回信州和牛（県内産）枝肉共励会				
	出品頭数：39頭		場所：京都食肉市場（京都市）		
最優秀賞	JAながの	(農)美雪ファーム 樋口	622.8kg	A5	BMS12

生まれも育ちも長野県の和牛が出品された共励会。関西の市況が重い中、全体にかなり高い
相場となりました。京都市場での信州産に対する高い評価を反映しています。（写真／表紙右上）

(敬称略)

12月3日	第72回長野県畜産共進会 和牛肥育の部				
	出品頭数：48頭		場所：大阪市食肉市場（大阪市）		
最優秀賞	JAみなみ信州	蜂谷 純	676.6kg	A5	BMS12

県共の和牛トップは誰もが狙うところ。入賞牛は高値でセリ落とされました。
大阪市場でも信州産の人気は高く、他産地と比べてもかなり高い相場展開となりました。

JA全農長野の事業現況

令和元年度 11 月末部門別実績表 (単位：百万円、%)

区分	部門	実績	計画比	前年比
野菜種苗センター	野菜種苗センター	131	91	92
	生産振興部計	131	91	92
	米	12,765	100	101
	果	28,514	92	94
	野菜花き	56,962	89	88
きのこ	きのこ	11,356	89	97
	営業	10,103	84	94
	生産販売部計	119,700	90	92
	包装資材	6,050	95	102
	生産資材	7,321	102	93
農業機械	農業機械	5,144	98	96
	施設住宅	4,780	133	187
	生産購買部計	23,296	104	108
畜産	畜産	8,619	102	96
	三岳牧場	223	111	111
	SPF繁殖センター	204	101	99
	酪農	12,144	98	97
	八ヶ岳牧場	169	95	103
畜産酪農部計	畜産酪農部計	21,359	100	97
	燃料・ホームエネルギー	15,950	98	94
	SS協同経営	7,312	98	93
	生活	7,881	99	99
	生活部計	31,143	98	95
長野県本部計	長野県本部計	195,629	94	95

(内部販売高含む)

1月の動き

1月10日(金)～ 2月29日(土)	信州の畜産酪農キャンペーン	畜産酪農部
1月30日(木)・ 31日(金)	第51回信州フラワーショー ウィンターセレクション JA南信会館(伊那市)	野菜花き課

1月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
1月29日(水) 11:50	SBCラジオ	坂ちゃんのずくせえがりでい内「暮らしの応援団」	燃料・ホームエネルギー課
毎週火曜日 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	信州の牛乳・乳製品に関する様々な情報をお届け。リスナープレゼントもあります。

編集後記

一年経つのは早いもので2019年
も大きな災害が発生しました。
その原因が地球温暖化によること
が主要因とされているようです。
世界規模で気象異常が発生し大
きな災害をもたらしています。日
本でも台風19号による大雨が記憶
に新しいところ。地球温暖化に
よる異常気象ということであれば、
今後も発生する恐れがあります。
長野県環境保全研究所などの試算
によると、温暖化スピード(気候変
動)は全国平均で年間2.49メー
トルの速さで進むそうです。より
標高の高い地域が、より北の地域
へ移動していくこととなります。
農産物の産地図が急速に変わって
いくことが心配です。

令和2年に向け、広報・宣伝関
係では松本山雅FCがJ1で奮闘
したもののJ2降格と残念な結果
となりましたが、J1復帰に期待
します。御嶽海は二度目の幕内優
勝を果たし、大関とりに仕切りな
おしの奮起を期待していきたいで
す。また、スピードスケートの小
平奈緒選手は不運も重なりW杯女
子500メートルは23連勝で止
まったものの、シーズン本番の活
躍に期待していきたいです。

(Y)

小平奈緒は、 「信州」を食べて 育ちました。

スピードスケート
小平奈緒 選手
所属:相澤病院(松本市)



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

グリーンリーダー1月号(毎月発行) 2019年12月20日発行 第488号
発行/ JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3
発行人/ 小林哲男 印刷/ PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

